



2014年7月



教育研修センター（南館）

2017年の病院リニューアルに向けて、教育研修センターを開設しました。京都民医連中央病院は、「京都市西北部の急性期・教育病院」をめざしており、質の高い地域医療のためには専門職能の育成が不可欠となっています。医師研修だけでなく、看護師、薬剤師、セラピストなど医療専門職、さらには、医師事務作業補助者、診療情報管理士、診療事務などの事務職も、すべての職員のスキルアップが必要となります。

教育研修センターの基本方針は、「患者様と向き合う、現場での職場教育に重点を置き、それを支える企画を日常診療に活かすことで、医療の専門職としての職員の日常的な成長を図る」としています。

ミッションは、①医療人としてプロフェッショナルでありつづける②個別の患者様を歴史的、社会的にまることがとみる視点がもてる③「育ち合える職場づくり」に主体的に参加できる④明日の京都民医連中央病院を創造できる⑤民医連職員として民医連綱領に基づき実践ができるの5点に沿った職員の育成としています。

南館を教育施設として新築しました。1階が学習コーナー、2階シミュレーションラボ、3階研修室となっており、シミュレーションラボでは臨床研修に必要な器具も配置しています。また、教育研修センター開設記念講演会を5月31日に開催し、日本福祉大学社会福祉学部篠田道子教授に「医療専門職を鍛え育む」をテーマにケースメソッド教育について話してもらいました。（詳細は<http://youtube.com/V1H1M1E1>）

全日本民医連総会運動方針は、「民医連の職場は人間的な発達を促す組織」と強調しています。教育研修センターがその機能を発揮し世代継承を成し遂げ、病院リニューアルが成功することを願って止みません。



早速、設計チームのみなさんと一緒に、大阪耳原グループのサ高住を見学しました。経過を伺い、入居者の方と懇談し、オープン1年後の姿に、私たちが目指す「住まい」のヒントをたくさんもらってきました。

6月20日「上京住まいづくり委員会」を始動、上京南館（介護事業所）から委員も補充し、「こんなこといいな、できたらいいな」を出し合いました。今は、思いついたことは何でも言い合う時期なので、文字通りの第一回委員会となり、設計者との関係づくりが始まり、基本設計を練り上げていきます。概要は、1階に地域の子どもも大人も気軽に立ち寄ってもらえるような「地域交流スペース」を、2階から5階は居室40室の予定です。地域交流スペースは、友の会の皆さんとワークショップも予定し、声と知恵を出し合い、新しい発想に大いに期待しています。

京都保健会として初めての「サービス付き高齢者向け住宅」（サ高住）建設（2016年1月オープン）に向け、5月15日に設計コンペティション・公開ヒアリングを職員と友の会で開催しました。当日の投票結果で、住まいづくりの経験が豊富で女性が中心の「もえぎ設計」と「Fluor空間計画」のプロジェクトチームに設計をお願いすることになりました。上京・地域包括ケアの小さな一歩がようやく踏み出されました。

上京住まいづくり委員会 始動する

介護事業部長 阿部未知